

# 「思考の大転換」を目指す、のこころ

1月12日 逍遙 

ところで、ここ照國神社に祀られている島津斉彬と言えば、特に鹿児島の方であれば知らない人はまずいないでしょう。幕末、強大な軍事力をちらつかせながら通商を迫る西洋列強の激しい外圧にさらされる時代背景の中にあつて、日本船の総船印として「日の丸」を初めて提案するなど、当時としては「思考の大転換」ともいふべき「日本国」という意識を提起し、薩摩藩内のみならず、日本国全体に対する強いリーダーシップを発揮するとともに、富国強兵・殖産興業にも先進的に取り組んだ方。

いつもの年と違って、今年は日をずらしての初詣となった逍遙館長さん。相変わらず新型コロナウイルスが猛威を振るい、人と人との近接性が大きな制約を受け続けている中、逍遙館長さんは照國神社の大鳥居をくぐりながら、探勝園側の隅っこにのんびりと佇んでいるワタシの姿に気付いたよう。

どうやら逍遙館長さん、斉彬に倣い、「思考の大転換」とやらを無理無理目指して、ワタシ達「猫社会のルール」を真剣に考え始めているようで…

次回「2つの「高さ」が語り継ぐもの、のこころ」

